MEIJO Q&A 02

経営学部 国際経営学科

Q. アジアの石油王はお菓子屋さん？

お菓子メーカーが石油を売るって感覚は、日本ではほとんどありませんが、新興国では特別なことではないんです。

これからは多角化を目指す、コングロマリット（複合企業）が増えてくる。

私の研究フィールドはアジアや新興国を中心とした企業経営ですが、こうした国の企業では財閥化やコングロマリット化が進む傾向にあります。例えば、日本のお菓子メーカーでも事業の多角化を図ることはありますが、まったく関係のない石油化学事業をやるとか、タンカーやオートバイをつくろうとすることはありません。しかしアジアや新興国では、お菓子メーカーが石油化学事業を手掛けることは普通のことなのです。例えば、日本法人を持つ韓国のお菓子メーカーでは、百貨店事業からホテル事業、さらには石油化学事業、建設事業、保険事業まで分野を問わず、あらゆる事業を展開しています。こうした企業経営にはデメリットもありますが、日本企業も取り入れるべき点、見習うべき点もあります。

ビジネス環境が違えば、目指す企業形態も違ってくる。

アジアでコングロマリットが多いのは、市場の成熟度だと言われています。成熟した先進国市場に比べ、つねに成長し続けている新興国市場では多くのビジネスチャンスが生まれてきます。普通ならそこでいろいろなベンチャー企業が台頭してくるのですが、現実的には大資本の財閥企業がその多くを吸収してしまい、ベンチャー企業が独自に成長する道を閉ざしているのです。また、コングロマリット化した企業はモノづくりからどんどん離れ、事業投資会社化へと変貌を遂げていくケースも多く見られます。その点、日本の企業はモノづくりに専念し、他事業には手を出さないケースが多いのですが、グローバルな時代だからこそ、日本の強みも理解しつつ世界がどのような動きをしているかを、つねに注視していくことが必要です。

澤田 貴之 先生

PROFILE

企業が次々と破綻していった戦前の恐慌期に興味を持ち、経済史的視点から英国や日本の綿工業を調べるようになったという澤田先生。研究を進めていく上では、環境や周囲からの制約を受けることは常なので、周りのことはあまり気にせず“ゴーイングマイウェイ”を貫くことも必要とか。

学生時代のマイブーム

夢中に本を読んだ学生時代は、時代の交代期でもあった。

流行っていたのはインベーダーゲーム、ピンクレディ、松田聖子。そして衝撃だったキャンディーズの解散。時代の交代期でしたね。当時は古本屋さんが多かったこともあって、とにかく本を買いました。食べるのに困っても本を優先し、それがどこかで血となり肉となったのかもしれませんね。